

研究報告の報告状況

資料NO. 2 - 6

(期間:平成16年4月1日～平成16年7月31日)

	一般的名称	報告の概要
1	酢酸メドロキシプロゲステロン	ホルモン補充療法群の結腸直腸癌ではプラセボ群に比較してリンパ節転移が多いことが特徴であり、癌の病期もより進行していた。さらにホルモン補充療法群では結腸直腸癌の転移が認められた女性の数はプラセボ群を上回った。
2	塩酸アムルピシン	非小細胞肺癌患者に対し塩酸イリノテカンの用量を60mgと固定してアムルピシンと併用を試みたが、毒性のため推奨用量を決定することができなかった。
3	ベタメタゾン	ステロイド内服中に重篤な麻疹ウイルス感染による急性肝炎が発症した症例
4	レボドパ	L-ドパ、ホモシステイン、MTHFR遺伝子型に関連するパーキンソン病患者の頸動脈IMC肥厚について
5	プラバスタチンナトリウム	プラバスタチンの薬物動態に及ぼすリファンピシンの影響について
6	リン酸デキサメタゾンナトリウム	デキサメタゾンは乳児の慢性肺疾患の治療に使用すると、乳児のその後の運動神経機能等に影響を与える。
7	酢酸メドロキシプロゲステロン	ホルモン補充療法群の結腸直腸癌では、プラセボ群に比較してリンパ節転移が多いことが特徴であり、癌の病期より進行していた。さらにホルモン補充療法群では結腸直腸癌の転移が認められた女性の数はプラセボ群を上回った。
8	アセトアミノフェン	ラニチジン又はニザチジンとの併用で、アセトアミノフェンのグルクロン酸抱合体血漿濃度は低下し、アセトアミノフェンの血漿濃度は用量依存的に増加した。ラニチジンおよびニザチジンのこの作用は、グルクロニルトランスフェラーゼの阻害による可能性がある。
9	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	ティーエスワン+低用量CDDP連日投与法においてGrade4の白血球数減少、血小板数減少、下痢を認めた。
10	フィルグラスチム	末梢血幹細胞の冠動脈内注入を伴うG-CSF療法は心機能を改善し、血管新生を促進した。
11	エストロゲン	エストロゲンとプロゲステロン併用のホルモン補充療法により大腸癌発現のリスクは低下するものの、病期が進行した状態で診断された。
12	メトトレキサート	原発性中枢神経系リンパ腫患者(45例)を対象として1995年～2001年に実施された高用量メトトレキサート療法の研究において、肺動脈血栓塞栓症による死亡が2例報告された。
13	メトトレキサート	英国医学研究審議会が1990年～1997年に登録した2090例の小児急性リンパ芽球性白血病患者を対象とした臨床試験において、2次発癌による死亡が10例報告された。
14	pH処理酸性人免疫グロブリン	重感染症に対して投与したグロブリン製剤によりARDSを来した1例
15	テグレトール	カルバマゼピン服用患者(三叉神経痛)にみられた副作用(ふらつきやめまい)の1例
16	ホリナートカルシウム	本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
17	アザチオプリン	肺線維症に対してアザチオプリンを投与中の患者に、サイトメガロウイルス(CMV)網膜炎が発現した。
18	アザチオプリン	腎移植後7年経過してEBウイルス関連リンパ増殖性疾患(PTLD)が発現した。
19	エストラジオール	経口避妊薬使用経験のない併用ホルモン補充療法使用者において、乳管癌のわずかなりリスク増加が示唆された。
20	プレドニゾロン	プレドニゾロンにより重篤なカリニ肺炎が発現した。
21	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウムの投与がAHRU(急性出血性直腸潰瘍(Acute Hemorrhagic Rectal Ulcer))発症の一因であると考えられた例

22	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	カリニ肺炎は免疫抑制状態の患者に発症し、呼吸不全を呈することの多い重篤な病態である。対象は、最近3年間で経験したカリニ肺炎10例である。基礎疾患はAIDS4例、慢性関節リウマチ2例、気管支喘息2例、多発性筋炎1例、HTLV-1キャリア1例である。またステロイドを投与中であった。その中で、3例に人工呼吸管理を要し、うち1例は死亡した。
23	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	急性増悪した膠原病肺の5例を対象とした。慢性関節リウマチ4例、多発筋炎1例で全例男性、平均年齢は67歳、肺ガンの合併が3例にあった。全例急性増悪後、3-76日で死亡した。肺ガン合併例はいずれも化学療法後に急性増悪し、うち2例でステロイド治療中あるいは減量中であった。治療として全例にステロイドパルス療法が1-4回施行され、2例に免疫抑制剤が併用された。
24	フロセミド	第2世代の抗てんかん薬であり、成人および小児の部分発作の治療において有効性が立証されているオクスカルバゼピンによる治療を受けていたてんかんの女性患者で、フロセミド投与後に脳症を発症した症例報告。オクスカルバゼピンによる治療を受けている高齢のてんかん患者にフロセミドを投与する場合には、電解質の慎重な観察が必要であると考えられる。
25	レノグラスチム(遺伝子組換え)	心筋梗塞患者における顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)療法により、責任病変において予想外に高いステント内再狭窄率が認められた。
26	塩酸ブレオマイシン	ACVBP療法を施行されたNON-HODGKIN LYMPHOMA (NHL) 患者でMDS/AMLの、また男性において肺癌の二次発癌のRISK増加がみられた。
27	エストラジオール	WHIの臨床試験ではエストロゲン・プロゲステン併用により大腸癌リスクが減少したが、ホルモン補充療法群の女性は大腸癌はプラセボ群の女性よりも進行した時点で診断された。
28	塩酸アムルピシン	2003年3月から2003年11月までに未治療既治療の肺癌10例および縦隔腫瘍2例の計12例(M/F:9/3, Age52-72)に対し塩酸アムルピシンを投与した。初回投与量は30mg/m ² ;1例、35mg/m ² ;4例、40mg/m ² ;7例、副作用はG3の吐き気1例、G3/4の白血球減少5/3例・好中球減少3/6例・血小板減少4/0例が認められた。抗腫瘍効果PR1例、SD3例、NC3例、PD5例であった。
29	混合ホルモン剤	乳癌の履歴のある女性に対するHRTは乳癌リスクを高める。
30	リセドロン酸ナトリウム水和物	オーストラリア厚生当局の発行するAustralian Adverse Drug Reactions Bulletinの2004年4月号に、オーストラリアにおけるビスフォスフォネート系薬剤に関する眼障害の副作用報告状況が公表された。
31	スルピリド	本剤を含む多剤を併用したヒトT細胞白血病ウイルス関連ミエロパシーの患者が「肝障害」を発現したが、投与の中止により軽快した。本剤はうつ病のために使用された。
32	アスピリン	in vitro試験及び限られた動物試験では、アスピリン及び非ステロイド系の抗炎症剤が膵臓の発癌性を阻害することが示唆されているが、人においてもアスピリンの長期使用による膵癌発現リスクの上昇を示唆された。
33	塩酸ピオグリタゾン	本剤等のチアゾリジンジオン系PPAR アゴニスト及び非チアゾリジンジオン系PPAR アゴニストがC57BL/6J-APCmin/マウスにおいて結腸腫瘍の形成を促進すると報告されている。
34	シンバスタチン	シンバスタチンはCYP3A4によって代謝される。カルバマゼピンはCYP3A4を誘導することが知られており、シンバスタチンと併用された場合、シンバスタチンのクリアランスを増強することが懸念される。
35	エストリオール	エストロゲンとプロゲステン使用による結腸直腸癌発生リスクを減少させることが示唆された。
36	バルプロ酸ナトリウム	Carbamazepine (CBZ)、Valproate (VPA) 等の抗てんかん薬による出生前の子宮内暴露の結果、小児期での言語性IQの低下が認められた。
37	プロブコール	プロブコールの副作用の中で特徴的なものにECG上のQT延長がある。この副作用の発現頻度は低い、致死的不整脈TdP発生の危険性と密接な関係があるといわれている。今回プロブコールによると思われるTdP発現例を経験したので報告する。
38	ニトログリセリン	陳旧性心筋梗塞例では、硝酸薬の併用及び高用量投与により心事故発生率が増加する。

39	塩酸クロミプラミン	三環系及び関連する抗うつ剤(TCAs)と突然の心臓の死のリスクについては、抗うつ剤非使用群と比べると、TCAs服用群では、心突然死のリスクが用量依存的に増加していた。
40	テオフィリン	テオフィリンは気管支喘息などの治療に広範に用いられている薬剤である。しかし有効血中濃度の範囲が狭く中毒出現濃度と接近していることから副作用の出現に十分な注意が必要である。
41	濃グリセリン・果糖	脳浮腫を伴うシトルリン血症には、グリセロールは有効でない。
42	アレンドロン酸ナトリウム	オーストラリアにおいて、ビスホスホネート製剤において炎症性眼疾患が発症した症例が報告されており注意すべきである。
43	ミソプロストール	ブラジルやベネズエラでは本剤が妊娠中絶目的で広く使用されていると推測されているが、今回、ベネズエラで2度の中絶に失敗した妊婦の胎児がMoebius症候群に罹患した症例が報告された。
44	プロポフォール	鎮静目的のプロポフォールを自発呼吸下でTCI投与した場合、酸素飽和度を維持しているにもかかわらず、プロポフォール効果部位濃度の上昇(2.5 µg/mL)に伴い、奇異呼吸または無呼吸が突然誘発された。
45	アスピリン	アスピリンの常用者とその使用期間の延長、また常用量の増加により膀胱癌リスクが増大することが示唆された。
46	デキサメタゾン	発生傾向の変化問題点(小児期非B型急性リンパ芽球性白血病のため多量のデキサメタゾン投与された思春期の女性患者では骨壊死のリスクが最も高い。
47	リン酸オセルタミビル	乳幼児を対象にリン酸オセルタミビル投与で耐性ウイルスが高率で発現した。
48	当帰芍薬散	妊娠20週より腹緊のため塩酸リトドリン、当帰芍薬散を服用し、Stevens-Johnson Syndrome (SJS)を発症した1例
49	エストラジオール	閉経後のホルモン補充療法により、新たな喘息発症のリスクが示唆された。
50	ザナミビル水和物	インフルエンザ感染症でのプラセボ対照の無作為化二重盲検試験におけるザナミビル投与群とプラセボ群のウイルス分離率に有意差が認められなかった。
51	アレンドロン酸ナトリウム	オーストラリアにおいて、ビスホスホネート製剤において炎症性眼疾患が発症した症例
52	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	ステロイド剤が多発性後極部網膜色素上皮症発症の誘引と考えられた多発性筋炎の1症例
53	インドメタシン	インドメタシンファルネシル、インドメタシン坐剤、エトドラクの投与により大腸穿孔を来した例
54	ブドウ糖	数年来過度の飲酒を続けていた、軽い錯乱で入院中の患者にブドウ糖を投与したところ、ビタミンB1欠乏状態が悪化しウェルニッケ脳症に至った例
55	プラバスタチンナトリウム	オレンジジュースはプラバスタチンの生体内利用率を増やしAUC及びCmaxを増加させる。
56	ペンタゾシン	無痛分娩目的で持続硬膜外麻酔を実施中、fetal distressのために帝王切開も麻酔に切り替え、局所麻酔剤の過量投与になり、低血圧と高度の徐脈をきたした1例
57	アスピリン・アスコルビン酸腸溶錠	アスピリン常用使用は膀胱癌発症のリスク増大させる。
58	メトロニダゾール	Metronidazoleに暴露された妊婦の出産児において低体重児、早産及び新生児死亡の発生率が上昇する恐れがある。
59	シクロホスファミド	シクロホスファミドの心筋障害として心電図上、心室細動、頻脈、虚血、結節性調律、洞性徐脈、固有心室調律、心停止、完全房室ブロック、死戦調律等の致死的な症状が発症し、これら副作用は心骨格筋内のグルタチオン欠乏によって増長されたこと。

60	リン酸デキサメタゾンナトリウム	慢性肺疾患を予防するために未熟児にデキサメタゾンを早期投与すると、学童期年齢に至った時点で身長、運動機能、IQ等に悪影響を及ぼす。
61	ブドウ糖	数年来過度の飲酒を続けていた、軽い錯乱で入院中の患者にブドウ糖を投与したところ、ビタミンB1欠乏状態が悪化しウェルニッケ脳症に至った例
62	ムロモナブ - CD3	移植患者において、本剤投与後、リンパ腫リスクが増加する可能性がある。
63	ジゴキシン	著明な高カリウム血症、乳酸アシドーシスを合併した高齢2型糖尿病患者の1例
64	アスピリン	長期にわたりアスピリンを常用している女性は膀胱癌発現の相対リスクが上昇する。
65	インカドロン酸二ナトリウム	オーストラリア規制当局(ADRAC)に報告されたBisphosphate薬剤群(alendronate, pamidronate, risedronate, zoledronic acid)に関連した炎症性眼疾患がADRACのwebサイトに公開され、注意喚起がなされた。
66	硝酸イソソルビド	陳旧性心筋梗塞例では、硝酸薬の併用及び高用量投与により心事故発生率が増加する。
67	塩酸フルトリプチリン	高用量のTCAsは突発性心死亡のリスク上昇に関連することが示唆された。
68	酒石酸メプロロール	アミオダロン併用によりメプロロールのCL/Fは顕著に減少し、この減少はデスエチルアミオダロン濃度に依存した。デスエチルアミオダロンのCYP2D6(メプロロールの主代謝酵素)に対するKi値は4.5 μMであることが報告されている。
69	イトラコナゾール	本剤はシクロホスファミドの代謝に影響を及ぼし肝毒性や腎毒性を惹き起こす可能性がある。
70	エストラジオール	Women's Health Initiative (WHI)試験において、閉経後女性に対してエストロゲン及びプロゲステロン併用投与を比較的短期間使用することは、結腸直腸癌発症のリスクの有意な減少に関連していた。しかし、エストロゲン及びプロゲステロン併用投与を受けた結腸直腸癌は、プラセボの投与を受けた結腸直腸癌に比べて、より進行した病期で診断された。
71	ジアゼパム	ジアゼパム直腸用ゲル使用中の死亡3例
72	プロブコール	プロブコールとリファンピシンの併用で、プロブコールのLDL-C、HDL-C低下作用が減弱した。
73	アスピリン・ダイアルミネート	アスピリンの膀胱癌予防の可能性を確認するため、88,378名の女性を対象に18年間の前向きコホート研究が行われた結果、長期使用は膀胱癌のリスクを上昇させる可能性が示唆された。
74	グリセリン	グリセリン浣腸とdinoprostが同時投与されたことにより、腸管蠕動の著しい亢進が惹起されたことにより、腸管虚血が発症
75	塩酸オキシコドン	oxycodoneとgatifloxacinの経口投与の併用によりgatifloxacinの最高血中濃度到達時間を著しく遅延させ、gatifloxacinの効果が減弱する恐れがある。
76	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	全身性エリテマトーデス、多発性動脈炎、アレルギー性肉芽腫性血管炎等の原因疾患の憎悪による治療中の合併症の一分症として生じたものが13例中9例、初発症状として肺胞出血が発症したのは4例であった。
77	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	全大腸炎型のUCで、緩解維持目的に5-ASA製剤を経口投与されていたが、頻回に再燃を繰り返す難治性の経過であった。その後、IgM型の単クローン性高ガンマグロブリン血症を認めていたが、他に血液疾患を示唆する所見に乏しく、さらなる精査は行われなかった。症状の憎悪を認め加療目的に入院しプレドニゾン40mgの静注及び、アザチオプリン経口で緩解維持されていたが、右尿管狭窄による水腎症、窄部の生検にて悪性リンパ腫と診断され、血液内科にて化学療法を施行された。
78	リン酸デキサメタゾンナトリウム	デキサメタゾン群は対照群に比べ、低身長で、頭囲が小さく、運動技能、運動協調性、視覚 - 運動の統合、全IQスコア、言語IQスコア、動作IQスコアが劣っており、臨床的に重大な障害の発生頻度が高かった。

79	ロキソプロフェンナトリウム	腕部筋・神経断裂で筋と神経縫合術を施行した。感染予防のためホスホマイシンを点滴投与した。術後とう痛に対しロキソプロフェンを内服投与した。術後6病日に急性肺障害をきたした。ステロイドパルス療法により胸水は著明に改善した。
80	トラネキサム酸	上部消化管出血に対するトラネキサム酸使用が誘因となり膝か動脈血栓症を発症したと推測された1例
81	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	上海女性労働者に対して実施された調査で経口避妊薬長期投与により結腸癌リスクが上昇した。
82	エストラジオール	閉経後のホルモン補充療法により、新たな喘息発症のリスクが示唆された。
83	リセドロン酸ナトリウム水和物	オーストラリア規制当局(ADRAC)に報告されたBisphosphate薬剤群(alendronate, pamidronate, risedronate, zoledronic acid)に関連した炎症性眼疾患がADRACのwebサイトに公開され、注意喚起がなされた。
84	エトボシド	モルヒネ、キニジン投与時にエトボシドの血中濃度が上昇する。
85	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	ST合剤投与後、急激な骨髄抑制により中止を余儀なくされた。
86	ファモチジン	ファモチジンによると考えられる無顆粒球症をきたした症例
87	塩酸イソクスプリン	塩酸イソクスプリンはブラボトルに入れ殺菌灯下に放置した場合のみ紫外線により分解し、24時間後の残存率は約50%で発色物質を含めた副産物も経時的に増加した。室内光下24時間放置では、塩酸イソクスプリンはほとんど消失せず安定であった。
88	小柴胡湯	原因不明の肝機能障害のため2年間小柴胡湯を服用していた患者が、非心原性肺水腫の病態を呈した薬剤性肺炎を発現した。
89	BCG膀胱内用	BCG膀胱内注入療法後に生じたライター症候群の1例
90	プレドニゾン	プレドニゾン投与中に壊死性膵炎を発症した1例
91	プレドニゾン	多発性骨髄腫を対象とした第 相試験においてプレドニゾン投与により再活性化された可能性のある劇症C型肝炎により2例死亡した。
92	下垂体性性腺刺激ホルモン	HMG-HCG投与により卵巣過剰症候群をきたしたと考えられる1例
93	テガフル・ウラシル	ユーエフティ・ホリナートおよび放射線併用療法試験中に発生した、治療に関連した2例の死亡例が報告された。
94	フェノバルビタール	フェノバルビタールによるHypersensitivity Syndromeの1例
95	ハロペリドール	ハロペリドールにより、重篤な錐体外路症状、悪性症候群(疑い)が発現した症例
96	炭酸リチウム	血清リチウム濃度とQTc間隔が正の相関を示した。
97	塩酸バンコマイシン	米国における3例目のVancomycin-Resistant Staphylococcus aureus (VRSA)の報告
98	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	上海女性労働者に対して実施された調査で経口避妊薬長期投与により結腸癌リスクが上昇した。
99	エトボシド	P糖タンパクの基質であるキニジン又はモルヒネとエトボシド経口剤を併用すると、エトボシドの血中濃度が単独投与時と比べて上昇し、バイオアビリティが増大する。
100	インターフェロン アルファ-2b	インターフェロン 投与による無痛性甲状腺炎の1例
101	塩酸アムルピシン	再発肺癌、化学療法治療歴のある患者に対する塩酸アムルピシン(AMR)単剤療法の効果、毒性をレトロスペクティブに検討結果、再発肺癌に対するAMRの有用性が示唆された。
102	ゾルミトリプタン	米国の小児用臨床試験の1つとして実施された青年期の安全性及び有効性を検討した試験(Trial311CUS/0005)において、青年期の片頭痛に対してゾルミトリプタンの有効性がプラセボと比較して有意差がみられなかった。
103	塩酸アミトリプチリン	三環系抗うつ剤の投与量に比例して心突然死のリスクが増大する。

104	メシル酸ネルフィナピル	2～13才の小児に対する推奨用法・用量を20～30mg/kg TID (with a meal) から25～35mg/kg TID (with a meal) に変更すること、また2才以下の小児について有効用量の信頼性が結論付けられないことが示された。
105	塩酸パロキセチン	高齢者におけるパロキセチンの低ナトリウム血症の発現率が「使用上の注意」の記載より高い。
106	非ピリン系感冒剤	妊娠後期のアセトアミノフェンの服用は次世代での学童期喘息・喘鳴の原因になることが示唆された。
107	ゲフィチニブ	EGFRリン酸化を阻害すると、上皮細胞の再生が阻害されることにより、プレオマイシン誘発性の肺線維症が増悪することが示唆された。
108	塩酸レボカバスタチン	本剤のアレルギー性結膜炎に対する治療効果および予防効果をプラセボと比較した結果、有意差が認められなかった。
109	塩酸ダウナルピシン	腸壁肥厚の存在によって腸管の炎症の悪化が示唆された。腸壁肥厚のある患者では重篤な合併症を引き起こす可能性があり、注意深い観察が必要である。免疫低下患者が虫垂炎と診断されたら大腸壁の厚さを検査すべきである。
110	濃グリセリン・果糖	脳浮腫を伴う成人発症II型シトルリン血症には、グリセロールは危険である。
111	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ヌーナン症候群に合併する低身長に対し成長ホルモン療法を行なったところ、側弯症が発現、進行し手術を要した。
112	アロプリノール	コケイン症候群と診断された女兒にアロプリノールを投与したところTINを発症し、その後ファモチジン投与した際にも前回と同様の急性腎不全を発症した例
113	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェン使用は出生児の喘息や喘鳴リスクを上昇させる。
114	コルヒチン	NSAIDsの長期服用により痛風関節炎症状が不顕性化されるも腎不全を併発し、服用中止後に全身性の多発関節炎を呈した痛風を発症した一例
115	硫酸モルヒネ	モルヒネへの高度の全身曝露が鎌状赤血球症患者における急性胸部症候群悪化のリスク増加と関連がある可能性がある。
116	ジノプロスト	ジノプロスト投与による血管攣縮に伴うnonocclusive mesenteric ischemiaの1例
117	酢酸テリパラチド	ラットがん原性試験の途中結果にて骨肉腫の発生が疑われたため、第 相試験参加被験者の追跡調査結果並びに中止した第 相試験結果の報告
118	カルボプラチン	治療抵抗性あるいは再発性の中等度悪性非ホジキンリンパ腫に対して、cytarabine(Ara-C)、carboplatin(CBDCA)およびprednisolone(PSL)併用療法を実施したところ、消化管出血および感染症の治療関連死2例が認められ、パラプラチンを含む化学療法との関連が否定できない。
119	プレドニゾロン	プレドニゾロンにより、重篤・未知な両側多発性腎梗塞を発症した症例
120	シクロホスファミド	幹細胞移植する患者において、イトラコナゾールとシクロホスファミドを併用すると、シクロホスファミドの活性代謝物4-ヒドロキシシクロホスファミドの濃度が高くなり、血清のクレアチニン濃度が上昇する恐れがある。
121	レノグラスチム(遺伝子組換え)	冠動脈疾患患者にG-CSF投与を行ったところ、重篤な有害事象2例(ST低下を伴う胸痛、トロポニンI/CK-MB増加、心筋梗塞、死亡)が認められた。
122	ジノプロスト	グリセリン浣腸、ジノプロストの投与が誘因となり非閉塞性腸管虚血症(NOMI)を発症した症例
123	エストラジオール	Women's Health Initiative(WHI)試験における追跡調査において、子宮摘出を受けた閉経後女性に対してエストロゲン単独投与を行うことにより、股関節部骨折リスクは減少したが、脳卒中リスクは増加した。また、冠動脈性心疾患(CHD)の発現率には影響しなかった。付帯的な疾患イベントの発現率は、CEE群とプラセボ群で同等であり、全般的な有益性は認められず、CEE投与は閉経後女性における慢性疾患の予防のための使用は推奨すべきではない。

124	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	メチルプレドニゾロンナトリウム投与後に白血球減少が発現した。
125	エストラジオール	閉経後のホルモン療法により、尿失禁のリスクが上昇することが示唆された。
126	アスコルビン酸	閉経後の女性において食事やサプリメントからのビタミンCの摂取により乳癌の発生率が上昇する。
127	タクロリムス水和物	原発性胆汁性肝硬変(PBC)のため肝移植を実施し本剤を基本とした免疫抑制を行なった患者において、PBCの再発率が高く、再発までの期間もciclosporinに比べて有意に短縮していた。
128	塩酸チアミン	一過性の壁肥厚を伴う特異な経過をたどった脚気心の一例
129	エストロゲン	エストロゲン単独投与のホルモン補充療法により、脳卒中発現のリスクが上昇する。
130	メシル酸ペルゴリド	ペルゴリド投与中の患者にとって拘束性心臓弁膜症は稀な所見ではない。医師は、心臓弁膜症が診断された場合は非麦角製剤に変更を考慮すべきである。
131	エストリオール	WHI試験において、子宮摘出を受けた閉経後女性に対するエストロゲン単独投与は、股関節部骨折リスクを減少させたが、脳卒中リスクを増加させた。また、CHDの発現率には影響せず、乳癌のリスク低下の可能性については今後の研究が必要である。付随的な疾患イベントの発現率は、CEE群とプラセボ群で同等であり、全般的な有益性は認められず、CEE投与は閉経後女性における慢性疾患の予防のための使用は推奨すべきではない。
132	日本脳炎ワクチン	日本脳炎ワクチン接種後に発症したADEMの1例
133	ゼラチン	スポンゼルを使用した子宮動脈塞栓術において、白血球増加 9000-17000(平均12200)、CRP増加 2-14、硬膜外チューブ抜去後の軽度～中等度の腹痛があった。
134	コバス アンプリコア STD-1	当該製品において測定結果の判定法の変更が必要となった。
135	酢酸ゴセレリン	ホルモン療法下の前立腺癌患者を対象とした3つの臨床試験においてQT間隔の延長が発現した。
136	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	静注免疫グロブリン投与後に輸血関連急性肺障害を生じた可能性がある一症例
137	組換え沈降B型肝炎ワクチン	B型肝炎ワクチン接種後に血小板減少性紫斑病を生じた乳児の一例
138	ラクツロース	下剤がアセノクマロールまたはフェンプロクモンとの投与中に過剰な抗凝固作用に関係しているという大規模集団コホート試験における追跡調査を実施した。
139	硫酸モルヒネ	キニジンとの併用での血漿モルヒネ濃度が上昇し、モルヒネ効果が増強するおそれがある。
140	エボエチン (遺伝子組換え)	FDAの公聴会で下記の問題点が指摘された。1)エリスロポエチン投与が血栓症・心血管系有害事象を増加させる可能性がある。2)エリスロポエチン投与が、腫瘍増殖を介してがん患者の生存率を低下させる可能性がある。
141	ピペラシリンナトリウム	ペントシリンがin vitroで血清中アスペルギルス抗原(ガラクトマンナン)の検査で陽性反応を呈する。
142	塩酸エタンブロール	肺結核患者の長期入院患者は外来治療移行が困難な要因を複数有しており、入院治療を継続せざるを得なかった。在院期間短縮のためには、退院後服薬支援、生活支援、外来機能向上が必須であると考えられた。
143	イブプロフェン	薬剤性の劇症肝炎の1例
144	アンプリコアSTD-1	測定結果の擬陽性率が高かった。
145	フェノバルピタール	ガンマグロブリン大量投与が無効であったフェノバルピタールによるTEN型薬疹の1例
146	小青竜湯	小青竜湯ドリンク剤による血小板減少症の1例
147	カルバマゼピン	カルバマゼピンとシンバスタチンの相互作用によるシンバスタチン及びシンバスタチン酸の血漿中濃度が減少した。
148	塩酸チザニジン	フルボキサミンによるチザニジンの作用が増強した。

149	塩酸セリプロロール	オレンジジュースによりセリプロロールのバイオアベイラビリティが減少した。
150	コルヒチン	コルヒチンによる重篤な腎不全が発症した症例
151	アルファカルシドール	alfacalcidolとtrichlormethiazide投与中に高Ca血症を来した症例報告
152	アモキサピン	三環系抗うつ剤等の環状抗うつ剤(TCAs)の用量が増加すると、用量依存的に心臓性突然死のリスクが高まる。
153	ジノプロスト	プロスタグランジンF2 _α の点滴による強直性の子宮収縮起こした症例
154	塩酸ヒドララジン	ヒドララジンは、血管内皮細胞のアポトーシスを誘導する。
155	塩酸チザニジン	チザニジンとフルボキサミンの併用により、チザニジンの代謝が阻害され血中濃度が大幅に上昇し有害事象が発現した。
156	ホリナートカルシウム	本剤の臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(脱水と電解質欠乏の結果、心停止による死亡例)
157	メシル酸ペルゴリド	パーキンソン病患者において、一般的な人口母集団で予測される弁異常に比べ、ペルゴリドの慢性投与が心臓弁疾患の発現頻度を増大させている。
158	塩酸チアミン	TPN液が調製され、それらが点滴投与される状況ではチアミンの安定性はほぼ保たれていること、また、文献の安定性データはチアミンの安定性を推定する根拠として信頼できることが確認された。
159	リン酸デキサメタゾンナトリウム	本剤投与後に菌血症、無顆粒球症が発現した1例が報告された。
160	アンブレナビル	アンブレナビルとロピナビル/リナビル併用療法において、ロピナビルはアンブレナビル濃度を顕著に低下させる。
161	塩酸ピラルピシン	進行乳がんにおけるピラルピシンを用いた術前化学療法ACの効果と毒性
162	エポエチン (遺伝子組換え)	がん化学療法に伴う貧血へのエリスロポエチン製剤投与と生存率及び腫瘍増殖、心血管系の血栓塞栓症についての関連性が議論された。
163	プラバスタチンナトリウム	高コレステロールのためプラバスタチンを開始2～3週間後に、全身の筋痛と筋脱力を呈したため薬剤を中止した。
164	デキサメタゾン	生後早期のデキサメタゾン療法が学齢期における神経運動機能と認知機能に重大な障害をもたらす頻度が高い。
165	ヒアルロン酸ナトリウム	ヒアルロン酸ナトリウムはEMR時の遺残癌細胞増殖を促進する。
166	リバビリン	核酸系逆転写酵素阻害剤3剤併用したHAART(多剤併用療法 (highly active antiretroviral therapy))を施行している患者において、肺炎に重度の乳酸アシドーシスを発現し死亡に至るなど、臨床的に重大なミトコンドリア毒性の危険性が示された。
167	ブデソニド	慢性閉塞性肺疾患患者において、現在高用量の吸入コルチコステロイド剤を使用していることと非脊椎骨折のリスク増大との関連性が認められた。
168	シスプラチン	放射線照射による脳の白質化について、因子別に検討すると、プラチナ系薬剤(シスプラチン)を含む化学療法を用いた症例で有意に発生頻度が高かった。
169	スルピリド	スルピリド等の抗精神病薬服用中の患者に顔面紅潮、発汗等の症状が発現した。
170	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	ホルモン避妊薬の使用は、HIV-1感染のリスクを増加する可能性がある。
171	テガフル・ウラシル	直腸癌に対し、OK-432/MMC/5-FU/UFT(D群)、MMC/5-FU/UFT(E群)、手術のみ(F群)のRCTを行い、安全性について検討したところ、D,E群はF群に比較し、血液障害、食欲不振、嘔気・嘔吐、下痢、呼吸系障害(具体的な事象名不明)において有意差を認めた。
172	ヒトインスリン	インスリン治療開始後に治療後痛性神経障害が発現した症例
173	プレドニゾン	プレドニゾンによる重篤なステロイドミオパチー、尿路感染症、敗血症が発症した症例
174	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法の臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)
175	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法の臨床試験において、本剤との関連性の完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)

176	プロピオン酸ベクロメタゾン	高齢者において吸入ステロイド剤を高用量長期間使用すると骨折のリスクが高くなる。
177	エストラジオール	閉経後のホルモン補充療法により尿失禁のリスクが上昇することが示唆された。
178	プレドニゾン	結節性多発動脈炎の患者においてプレドニゾン投与中に感染症を併発し、その後死亡した1症例報告
179	イトラコナゾール	グレープフルーツジュースの反復摂取はHP-β-CD-ITZ200mg経口服液投与被験者においてITZの全身アベイラビリティに中等度に影響を与えた。
180	フィブリノゲン加第13因子(3)	乳び胸に対して電気凝固法とフィブリン糊を用いた手術後に深部静脈血栓が発現した。
181	塩酸アマンタジン	アマンタジン中毒により意識障害、ミオクローヌス重積をきたし、脳波で周期性同期性放電(PSD)を認めた。
182	塩酸アマンタジン	複数の麦角系ドパミンアゴニストにより睡眠発作を呈したParkinson病の1例
183	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法に関する臨床試験で、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)
184	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法に関する臨床試験で、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)
185	塩酸アミトリプチリン	環状抗うつ剤の高用量投与による心臓突然死リスク上昇
186	肺サーファクタント	未熟児網膜症のリスクファクターの1つにサーファクタントの使用が含まれている。
187	ブスルファン	静注用Buの新たな投与スケジュールを検討した結果、2例の死亡が認められた。1例は多形紅斑に関連する合併症で、1例はVODで死亡した。
188	塩酸パパベリン	動脈瘤のくも膜下出血の後に脳の血管痙攣の治療に使用された動脈内のパパベリンの神経毒症状
189	リン酸コデイン	リン酸コデインによる過敏症症候群を起こした症例
190	ゼラチン	子宮筋腫の治療にスポンゼルを動脈塞栓術に使用した時、月経痛様の疼痛、感染が起こることがある。
191	ゼラチン	子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術は初期治療成績として高い症状改善率と満足できる腫瘍縮小率をしめしており、その低侵襲性からも子宮筋腫の治療法として認められつつある。
192	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	本剤及びDocetaxel併用試験で、予測不可能で重篤な有害事象が発現した。
193	水酸化アルミニウムゲル・水酸化Mg	幼児の長期制酸剤投与後の代謝性骨疾患の例
194	ジクロフェナクナトリウム	OTC非ステロイド系抗炎症薬の服用に対する交差感受性は、アスピリン喘息のほとんどの患者で存在した(イブプロフェン98%、ナプロキセン100%、ジクロフェナク93%)。
195	塩酸ミノサイクリン	抗HTLV-1抗体陽性患者に発症した多剤薬剤過敏を伴ったFUMHDの1例
196	アムホテリシンB	治療関係骨髄異形成症候群(t-MDS)に対して行った同種末梢血幹細胞移植後早期に発症しTBLBで診断し得た肺接合菌症
197	トラフェルミン(遺伝子組換え)	bFGFの腫瘍内微小血管の促進が、腫瘍細胞の増殖の一因であることが示唆され、in vivoにおいてもbFGFにより腫瘍細胞の増殖が促進されることが示唆された。
198	塩酸ミトキサントロン	本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
199	エストロゲン	閉経後女性に対するエストロゲンとプロゲステン併用のホルモンの補充療法により静脈血栓症のリスクが上昇する。
200	塩酸ゲムシタピン	非小細胞肺癌患者におけるドセタキセル(TXT)とゲムシタピン(GEM)weekly投与の用量決定試験で発現した肺毒性
201	塩酸バンコマイシン	米国における初めてのバンコマイシン(VCM)耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)の感染症例報告

202	マレイン酸フルボキサミン	フルボキサミンがチザニジンの代謝酵素であるCYP1A2を阻害する。
203	マレイン酸フルボキサミン	フルボキサミンがチザニジンの代謝酵素であるCYP1A2を阻害する。
204	塩酸ミトキサントロン	本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)
205	ベザフィブラート	コレステラミンとベザフィブラートを同時に併用するとベザフィブラートの吸収が低下する。
206	ヘパリンナトリウム	ヘパリン起因性血小板減少症を基礎疾患として有する患者において、ヘパリンを再曝露した場合、生命を脅かす急性心肺症状を呈するおそれがある。
207	塩酸バンコマイシン	VCM、アルベカシン(ABK)、TEICなどに耐性のグラム陽性球菌あるいはmetallo-lactamase産生緑膿菌と考えられる株は見られなかった。
208	メトロニダゾール	幹細胞移植患者にブスルファンとメトロニダゾールとの併用で、ブスルファン血漿濃度が上昇する。
209	ランソプラゾール	ランソプラゾールはラットにおいて十二指腸胃逆流による胃癌発生作用を増強する。
210	プロピオン酸ベクロメタゾン	COPD患者において吸入ステロイド剤を高用量使用すると骨折のリスクが高くなる。
211	アレンドロン酸ナトリウム	ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死
212	アレンドロン酸ナトリウム	ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死
213	メルカプトプリン	高齢者の急性骨髄性白血病患者(AML)に対する低用量化学療法(エノシタピン、ダウナルビシン及びメルカプトプリン)による多施設臨床試験において、化学療法誘発性の骨髄形成不全中の感染症のため6名が死亡し、Grade 4の副作用が7例(感染症3例、腸疾患2例、心臓疾患1例、肺疾患1例)みられた。
214	メルカプトプリン	高齢者の急性骨髄性白血病患者に対する寛解導入療法の多施設無作為比較試験において、BH-AC/DM(エノシタピン(BH-AC) +メルカプトプリン(6MP) +ダウナルビシン(DNR))群において、化学療法誘発性の骨髄形成不全中の感染症のため4名が死亡した。
215	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン及びエストロゲンがDNA損傷の修復能を欠損させた細胞系で遺伝毒性を示した。
216	メトトレキサート	成人急性リンパ性白血病(ALL)の治療方法を検討した試験において4例の早期死亡(脳出血:1例、アスペルギルス症:1例、消耗症候群:2例)が報告された。
217	メトトレキサート	1993~1998年の間に576例が登録された急性前骨髄球性白血病(APL)治療におけるAPL患者の長期転帰を調査した結果、敗血症、心不全、出血、骨髄異形成症候群(MDS)による死亡がそれぞれ20例、4例、2例、2例報告された。
218	ワルファリンカリウム	Warfarinとcranberry juiceとの相互作用の症例報告
219	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウムの投与により全身に薬疹が発現し、治療、経過観察中に同一成分(ジクロフェナク)の坐剤を使用したところ、皮疹が再燃した例
220	ソマトロピン(遺伝子組換え)	成長ホルモン(GH)を投与した成人成長ホルモン欠損症患者(AGHD)において、男性では関節痛が、女性では浮腫が多く観察されるなど、男女間で副作用の発現傾向に違いが認められた。
221	ウルソデスオキシコール酸	輸入脚空腸憩室穿孔に随伴した特異な腸石の1例を経験した。
222	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、糖尿病のリスクを増加する可能性がある。
223	トリクロルメチアジド	trichlormethiazideにより、重篤な高Ca血症が生じた症例
224	ラクツロース	肝性脳症患者における非吸収性二糖類(ラクツロースおよびラクチオール)の効果の評価するために行われた、22件の臨床試験の系統的レビューの結果

225	アクチノマイシン D	一般人口と比較し、絨毛癌患者で、子宮保存的かつ化学療法後の母体からの出生児に高率に心臓の先天異常を認めた。
226	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(形成不全による死亡例)
227	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法により移植前処置を受けた患者が、本剤との因果関係が否定できない毒性により移植後に死亡した。
228	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法を使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(心不全による死亡例)
229	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法を使用した臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。
230	デキサメタゾン	デキサメタゾンまたはプレドニゾンによる導入療法を行った結果、CTCgradeと思われるgrade3-4の感染、高血糖、運動機能障害、静脈血栓症が認められている。
231	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として好中球減少性敗血症による死亡が認められている。
232	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として感染による死亡が認められている。
233	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として感染、心不全、腎不全等による死亡が認められている。
234	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として敗血症、心臓死による死亡が認められている。
235	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性による死亡が認められている。
236	ヒアルロン酸ナトリウム	ヒアルロン酸ナトリウムは創傷部腫瘍遺残モデルにおける癌細胞増殖に関与していることが示唆された。
237	アロプリノール	痛風のためアロプリノール(200mg/日)を服用したところ約1ヶ月後より咳、呼吸困難が出現した1例報告
238	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な多発性腰椎椎体圧潰を認めた1症例報告
239	塩酸ミノサイクリン	ざ瘡の治療目的で塩酸ミノサイクリンを投与したところ、肝障害が発現した。
240	ラクツロース	肝性脳症患者における非吸収性二糖類(ラクツロースおよびラクチール)の効果の評価するために行われた、22件の臨床試験の系統的レビューの結果
241	クエン酸シルデナフィル	シルデナフィル投与例における心筋梗塞および虚血性心疾患の死亡割合と、英国の一般男性母集団におけるその割合との比較により、本剤が心筋梗塞および虚血性心疾患の発現を増加させるという確証は認められなかった。
242	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリンを10日間投与したところ、薬剤性肺炎が発現した。
243	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリンを7日間投与したところ、薬剤性肺炎が発現した。
244	プレドニゾン	Sweet病の患者においてプレドニゾン投与中に抗酸菌感染を認め、その後多臓器不全のため死亡した。
245	ホスフェストロール	50年代および60年代から受け継がれたジエチルスチルベストロール(DES)の後遺症
246	エストラジオール	BMI24Kg/m ² 未満の女性で、エストロゲンとプロゲステロン併用療法による子宮平滑筋腫が発現するリスクが上昇することが示唆された。
247	塩酸メトホルミン	腎不全患者においてメトホルミンの排泄が低下したため毒性をもたらし、重症の乳酸アシドーシスと膵炎に至った症例報告

248	トルナフタート	Hungarian Case-Control Surveillance of Congenital Abnormalities (HCCSCA)の人口集団に基礎を置いたデータセット中、先天異常の認められた22,843例のうち13例の母親が、また先天異常が認められなかった38,151例のうち13例の母親が妊娠中にトルナフタートスプレーの投与を受けていた。先天異常の調整オッズ比は1.9であり、トルナフタートの潜在的催奇形性の可能性が示唆された。
249	リン酸デキサメタゾンナトリウム	妊娠中及び生後のステロイド投与が脳の大きさに影響を及ぼす可能性がある。
250	リン酸デキサメタゾンナトリウム	子供時代に急性リンパ性白血病(ALL)のためにdexamethasoneを治療した患者群で認知及び学力が低い傾向にある。
251	リン酸デキサメタゾンナトリウム	糖質コルチコイドで治療された患者は皮膚癌のリスクが増加する可能性がある。
252	ヒアルロン酸ナトリウム	HA関注後にTKAに至るカンジダ性膝関節炎が発症する可能性がある。
253	小柴胡湯	小柴胡湯を服用後、間質性肺炎を発症した1例
254	葛根湯	葛根湯服用後薬剤性肝障害を発症した1例
255	メシル酸ナファモスタット	1999年～2002年の間に経験したメシル酸ナファモスタットに対する重篤なアレルギー症状11例
256	ヒアルロン酸ナトリウム	創傷部遺残腫瘍モデルにおいてヒアルロン酸群はコントロール群に比べ創傷部下皮腫瘍の体積と腫瘍重量が有意に大きかった。また、創傷部遺残腫瘍モデルのヒアルロン酸群コントロール群に比べ、腫瘍部のPCNA indexが高く、CD44蛋白び発現量は高い傾向であった。
257	シロスタゾール	徐脈傾向が続いたため、シロスタゾールの投与を開始したところ心室拍数は増加したが、動悸症状に一致するTdPを認めた。
258	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)
259	リセドロン酸ナトリウム水和物	ビスフォスフォネート系薬剤の長期投与に関連する顎の骨壊死
260	シスプラチン	フルオロウラシル、シスプラチン投与後に、意識障害を伴う高アンモニア血症を認めた。
261	塩酸プロカルバジン	小児癌治療後のSTS(soft tissue sarcoma)リスク上昇は、放射線療法への曝露とプロカルバジンへの曝露に関連している。
262	ケトプロフェン	NSAIDsによる肝障害の発現が女性において有意に高い。
263	シクロホスファミド	末梢血幹細胞自家輸血を行うハイリスクの乳癌患者において、本剤:シクロホスファミドとイホスファミドを含む多剤高用量化学療法と放射線治療を併用すると、続発性の急性骨髄性白血病が発症する。
264	シクロホスファミド	侵襲性非ホジキンリンパ腫患者にとって、ACVBP(アドリアマイシン、シクロホスファミド、ビンデシン、プレオマイシン、プレドニゾン)療法は非常に有効性の高い療法である一方、続発性骨髄異形成症候群や続発性急性骨髄性白血病、及び男性患者における肺癌の発生数を増加させる。
265	ケトプロフェン	NSAIDsによる肝障害の発現が女性において有意に高い。
266	ハロペリドール	抗精神病薬による悪性症候群を生じ、発熱、乏尿、CK上昇を認めた。
267	ブデソニド	COPD患者におけるICS使用と非脊椎骨折リスクにおいては、指標日から90日以内のBDP投与群又はブデソニド使用群に限定して関連性がみられた。
268	沈降破傷風トキソイド	破傷風トキソイド接種後の急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) 発症例
269	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後の心膜炎発現の症例
270	テオフィリン	咳、喘鳴のためテオフィリンを服用したところ強直性けいれんが発現した。
271	ニフェジピン	高血圧症のため約15年間ニフェジピンを服用していたが、歯肉が徐々に増殖したため部分的歯肉切除を施行した。
272	塩酸ケタミン	塩酸ケタミン等を用いて実施した全静脈麻酔症例について
273	リセドロン酸ナトリウム水和物	ビスフォスフォネート系薬剤の長期投与に関連する顎の骨壊死
274	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後のギラン・バレー症候群に共存する心膜炎又はネフローゼ症候群

275	リン酸ベタメタゾンナトリウム	ステロイド投与後、持続性ARED発現群で子宮内胎児死亡2例と重篤なアシドーシス2例が認められた。早産期IUGR/AREDの胎児では出生前ステロイド投与は健常の胎児と異なる心臓血管反応を示す。
276	硫酸ゲンタマイシン	満期と満期に近い期に生れた新生児において、低Ca血症と24時間間隔のゲンタマイシン治療とに関連性を認めた。
277	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	チック症に対する免疫グロブリン (IVIg) の有効性および安全性を2重盲検試験により調べたところ有意な効果を確認できなかった。
278	非ピリン系感冒剤	アルコール常飲者におけるアセトアミノフェン肝毒性
279	非ピリン系感冒剤	慢性アルコール依存者におけるパラセタモールの毒性
280	非ピリン系感冒剤	アルコール常時摂取者によるアセトアミノフェン肝毒性
281	フルバスタチンナトリウム	フルバスタチンが、膵細胞機能に影響を与え、量依存的にインスリン分泌能含量及び遺伝子発現量が減少した。
282	シスプラチン	化学療法内容 (プラチナ系薬剤使用の有無) の各因子について、全白質変化および高度白質変化の発生頻度をみるとプラチナ系薬剤を含む化学療法を用いた症例で有意に白質変化の発生頻度が高かった。
283	d - マレイン酸クロルフェニラミン	ラットによる試験であるが、クロルフェニラミンとメタンフェタミンの薬物相互作用の結果、メタンフェタミン誘発性の精神運動活性化が増強される可能性がある。
284	エストラジオール	BMI24kg/m2未満の女性で、エストロゲンとプロゲステロン併用療法による子宮平滑筋腫が発現するリスクが上昇することが示唆された。
285	エストラジオール	過去5年以内にホルモン療法を中止した骨粗鬆症の既往のない女性において、ホルモン療法未使用者と同程度以上の大腿部骨折リスクが示唆された。
286	プロピオン酸ベクロメタゾン	COPD患者において吸入ステロイド剤を使用すると骨折のリスクが高くなる。
287	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクによる肝障害について、IL-10遺伝子およびIL-4遺伝子に変異のある患者に発生頻度が高いことが示唆された。
288	ロラゼパム	統合失調症患者にロラゼパム等を投与し、錐体外路症状の副作用が発現した。
289	塩化スキサトニウム	塩化スキサトニウムおよび塩酸ニカルジピンを使用した修正電気痙攣療法 (m-ECT) における合併症調査にて、頭痛、頻脈、高血圧、嘔気嘔吐、口腔内・歯牙損傷、SpO2低下、筋弛緩作用遅延、不整脈、徐脈、覚醒時不穏等の合併症がみられた。このうち、SpO2低下、不整脈、徐脈については死亡につながる恐れのある事象であった。
290	人血清アルブミン	ICUに収容された患者の循環血液量の回復のための治療として、アルブミン投与と生理食塩液投与は臨床的に同等であることが示された。
291	人血清アルブミン	アルブミンを投与されたICU患者は、アルブミンを投与されなかったICU患者に比べて死亡率が高かった。
292	プレドニゾン	慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群の治療に対し、プレドニゾンを投与中に発生した空腸嚢腫様気腫症の1例
293	テガフル・ウラシル	オキサリプラチン / テガフル・ウラシル / ロイコボリン併用療法にて好中球減少性感染症及び上部消化管出血で死亡
294	テガフル・ウラシル	ドセタキセル / シスプラチン / ユーエフティ (UFT) / ロイコボリン (LV) の併用療法にて敗血症で死亡
295	テガフル・ウラシル	Paclitaxel / tegafur - uracil / folinic acid の併用療法の第II相試験にて毒性死が3例認められた。
296	塩酸モルヒネ	持続硬膜外麻酔に用いるモルヒネは投与量が多いほど良好な鎮痛効果が得られたが、尿閉の発生率も高まった。
297	デキサメタゾン	ALLに対して、デキサメタゾンを含む維持化学療法を行った結果、敗血症性ショック、死亡が認められた。
298	シクロホスファミド	急性リンパ性白血病治療のため、導入化学療法 (シクロホスファミド、酢酸デキサメタゾンを含む) を受けた患者において高血糖の発生率が高くなり、その結果、感染症発生率と全死亡率が増加する。

299	ラクツロース	非吸収性二糖類(ラクツロース及びラクチール)の肝性脳症に対する有用性の根拠が不十分である。
300	ハロペリドール	精神病院において身体拘束中の精神病患者は向精神病薬の作用、鎮静と身体拘束に伴う身体不動化による血流うっ滞、身体拘束による静脈損傷、あるいは脱水などの原因により、深部静脈血栓症から急性肺血栓塞栓症を発症するリスクが高いと思われる。
301	イブプロフェン	非選択的NSAIDsの使用によるうっ血性心不全のリスク上昇
302	ロルノキシカム	フロセミドとロルノキシカム併用投与の結果、フロセミドの利尿効果が減弱した。
303	塩酸ゲムシタピン	Gemcitabineに関連した血栓性微小血管症の発現頻度の増加
304	塩酸イミプラミン	三環系抗うつ剤のイミプラミン及び抗パーキンソン剤のアマンタジンにより不完全悪性症候群を生じ、それに伴い、たこつば型心筋症を認めた。
305	ブスルファン	サラセミアの骨髄移植におけるブスルファン経口製剤と静注製剤の比較した試験で、経口投与群の1例が大量腹腔内出血で死亡し、静注投与群で、1例、8ヵ月後の時点で移植片拒絶反応を示し、2回目の移植後に生着不全を来して死亡した。
306	ブスルファン	多発性骨髄腫に対しメルファランとブスルファン/サイトキサンによるタンデムサイクル大量療法を施行したのち、インターフェロン-2(IF)維持療法にサリドマイドを併用した患者と併用していない患者計104例に、高い完全寛解率ならびに無増悪生存率と全生存率の改善がみられる。
307	塩酸イリノテカン	CPT11/TOM併用療法における、UGT1A1遺伝子多型性についてのスクリーニングは、CPT11誘発性の胃腸毒性に感受性のある患者を確認する手段として臨床的に有用である。
308	塩酸イリノテカン	CAP/CPT11併用療法におけるUGT1A7とUGT1A9遺伝子型についてのスクリーニングは、有効性と毒性の予測因子として臨床的に有用である。
309	塩酸モルヒネ	モルヒネの持続硬膜外投与により、重篤な低血圧の発生頻度が81例中21例(26%)であった。
310	塩酸ドネペジル	プラセボと比較してナーシングホームへの入所または能力障害の悪化におけるドネペジルの治療に有意な差はみられなかった。同様に、行動的および精神的症状、介護人の精神病理、公的な介護費用、無報酬の介護時間、有害事象または死亡、ドネペジル投与量5mgまたは10mgに関して、ドネペジルとプラセボで有意な差は見られなかった。
311	アロプリノール	痛風の診断にてアロプリノール投与後、薬剤性肺炎を発症した1症例報告
312	アロプリノール	アロプリノール服用によりHHV-6およびCMVの再活性化を伴う紅皮症が発現した1症例報告
313	エストラジオール	過去5年以内にホルモン療法を中止した骨粗鬆症の既往のない女性において、ホルモン療法未使用者と同程度以上の大腿部骨折リスクが示唆された。
314	エストリオール	WHIMS試験のエストロゲン単独投与群でも全体的認知機能が低下した。
315	エストリオール	WHIMS試験のエストロゲン単独投与群でも痴呆と軽度認知障害のリスクが上昇した。
316	イブプロフェン	COX-2阻害剤、または非選択的NSAIDsを投薬した高齢患者でうっ血性心不全での入院の割合を比較した。
317	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に両側視神経炎にて発症し、ステロイド漸減中に再燃した散在性脳炎の1症例報告
318	メトトレキサート	1999年8月から2003年3月に、移植後リンパ増殖性疾患(PTLD)の小児患者5例を治療したB細胞に対する高用量化学療法において4例の敗血症が発現し、中央値で1年間の追跡調査では、1例が慢性の臓器拒絶反応により、もう1例は敗血症により死亡した。

319	塩酸ミトキサントロン	本剤を使用した併用療法において、本剤との因果関係が完全には否定できない二次性悪性疾患が報告された。(急性白血病による死亡例)
320	デキサメタゾン	移植後の多発性骨髄腫に対して、デキサメタゾンを含む維持化学療法を行った結果、敗血症による死亡が認められた。
321	プレドニゾン	間接リウマチ患者においてプレドニゾン投与中に骨量低下によると考えられる両側大腿骨頸部骨折を認めた。
322	エストラジオール	マンモグラフィーによるfalse positive(もしくは疑陽性)の増加が示唆された。
323	ジソピラミド	ジソピラミド服用後にBrugada症候群を発現した。
324	デキサメタゾン	免疫能が正常な原発性中枢神経リンパ腫の患者に対して、デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、敗血症による死亡が認められた。
325	塩酸ピオグリタゾン	FDAの自発報告データベースを解析の結果、シンバスタチンの副作用報告例と比較すると、アトルバスタチンの副作用報告例にはピオグリタゾンあるいはロシグリタゾンの併用例が3.1倍多い。
326	デキサメタゾン	未治療の多発性骨髄腫の患者に対し、デキサメタゾンと13-シス-レチノイン酸による治療を行った結果、肺炎等の副作用が認められた。
327	エチゾラム	透析患者に常用量のエチゾラムを投与したところ、意識障害を生じた1症例報告
328	セファクロル	歯科では歯根管にメロニダゾール・セファクロル・シプロフロキサシンの混合粉末の充填処置を受けており、これらの薬剤によるブリックテストを行ったところ、セファクロルで強陽性をきたし、同剤によるアナフィラキシーと診断した。
329	バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸とアスピリンの大量投与による重症急性膵炎の1例
330	オレイン酸モノエタノールアミン	内視鏡的食道静脈瘤硬化療法後に発現した腹水、黄疸、肝性脳症、消化管出血、縦隔炎、腎不全について
331	リン酸デキサメタゾンナトリウム	新生児へのデキサメタゾン投与が知能や脳神経等に影響を及ぼす可能性がある。
332	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	メトトレキサート投与中にカリニ肺炎を合併した関節リウマチ症例の2例に対し、ST合剤を投与したところ全身性の発疹、汎血球減少症が発現した。
333	エストラジオール	HRT使用者において、false positive(偽陽性)マンモグラムのリスク増加が示唆された。
334	塩酸シプロフロキサシン	塩酸シプロフロキサシン服用中にDRESSを発症した。
335	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェンの関与が疑われるBOPPの発症
336	プレドニゾン	ステロイドパルス療法を契機にガス壊疽を発症した2型糖尿病の1症例報告
337	乾燥細胞培養痘そうワクチン	ワクチン接種者との接触によるワクシニア眼感染症
338	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェンとアルコールの併用により肝障害が発現する可能性がある。
339	非ピリン系感冒剤	治療量アセトアミノフェンを服用しているアルコール常用者における肝障害の発現
340	ハロペリドール	ハロペリドール、ピペリデン内服後に悪性症候群を発症
341	塩酸ピペリデン	ハロペリドール、ピペリデン内服後に悪性症候群を発症
342	塩酸ミノサイクリン	他の併用薬と伴に塩酸ミノサイクリン(200mg/日)を11日間経口投与したところ、間質性肺炎が発現
343	ホリナートカルシウム	治療関連死は2例であり、好中球減少性感染症および上部消化管出血によるものであった。
344	ホリナートカルシウム	本剤を使用した併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(敗血症による死亡例)
345	ホリナートカルシウム	毒性は年齢に依存しており、試験開始時に高齢者で毒性による死亡が3例発生した。

346	アスコルビン酸	ビタミンC静注療法は透析患者のEPO不応性貧血に対し6割に有効であった。反応の程度は血清鉄に related した。
347	アスピリン	非弁膜症性心房細動におけるアスピリンの介入試験(JAST)では、症候性脳梗塞の予防効果は認められず、重篤な出血性合併症の発症率を高める可能性がある。
348	ハロペリドール	統合失調症にて入院加療中、突然の嘔吐、腹痛を主訴に当院へ救急搬送された。
349	塩酸モルヒネ	呼吸管理状態の早期産児に静注することにより、重症の脳室内出血、脳室周囲白質軟化症、死亡等が出現する可能性がある。
350	塩酸モルヒネ	モルヒネ硬膜外投与時の使用量増加による尿閉の発現頻度上昇
351	スルピリン	臨床経過よりReye症候群と考えられ、短時間の間に著明な脳腫脹、水頭症、くも膜下出血を生じたと推測された。
352	ウロキナーゼ	中大脳動脈塞栓症急性期にウロキナーゼを選択的中大脳動脈カテーテルから投与したところ、出血性梗塞合併率が40%であり、使用上の注意に記載している頻度より高かった。
353	塩酸プロプラノロール	甲状腺中毒症では対症的に 遮断薬、Ca拮抗薬を使用するが、甲状腺中毒症と冠攣縮性狭心症の関連や、遮断薬の冠攣縮性狭心症への悪影響の可能性を考え、慎重な薬剤選択の重要性が示唆された。
354	スルピリン	病理組織から腎不全の原因は、急性間質性腎炎と診断された。
355	ガチフロキサシン水和物	ワルファリンとの相互作用の疑い。死亡患者は4例であった(年齢70~90歳、シプロフロキサシン服用1例、ガチフロキサシン服用2例、レボフロキサシン服用1例)
356	ジアゼパム	大量シスプラチンの超選択的動注療法と照射の同時併用療法を行い、GradeIII以上の副作用は84.1%の症例に見られた。
357	アセトアミノフェン	風邪薬が高山病を悪化させ死に至ることとの関連についてはヒマラヤ登山におけるストレス、低酸素、風邪薬中のイソプロテレノールの可能性も大きいと思われる。
358	リバビリン	リバビリン投与は生殖障害及び胎児に影響があることが示唆された。
359	ドセタキセル水和物	進行性肺非小細胞癌患者に塩酸ゲシタピンおよびドセタキセルを週1回投与した場合、重度の肺毒性が高い頻度で認められる。事象発現と用量との間に関連性はみられない。
360	リン酸コデイン	母親の妊娠中あるいは授乳期間中のコデイン使用とその子供における神経芽細胞腫発症のリスク
361	塩酸イリノテカン	UDPグルクロノシルトランスフェラーゼ(UGT1A1)遺伝子多型検査は、塩酸イリノテカン(CPT-11)をベースにした化学療法での下痢、嘔吐、無力症のリスクの低い患者を確認する手段として臨床的に有用である。メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素(MTHFR) C677T多型性に関しては、毒性に差異は認めなかった。
362	塩酸イリノテカン	転移性結腸直腸癌患者に対するCPT-11とカペシタピン(CAP)の併用投与の第2相試験において、UGT1A7とUGT1A9遺伝子型についてのスクリーニングは、有効性と毒性の予測因子として臨床的に有用である。
363	塩酸チクロピジン	血液透析患者に発症したticlopidineによる抗ヒストン抗体陽性薬剤誘発性ループス症候群の1症例報告
364	塩酸ロペラミド	腹痛、下痢を認め他院にて抗生剤(CTX、LVFX)と塩酸ロペラミドを処方された。その後発熱と腹部疼痛を認め、入院の上治療を開始した。CTで汎発性腹膜炎と診断し開腹術を施行したところ、腹水とともに上行結腸に壊死巣を認めた。腸液よりMRSAが確認され、術後も腹痛が持続した。大腸内視鏡で下行・横行結腸の一部に全周性偽膜形成を認めた。
365	レボホリナートカルシウム	前治療歴のある進行結腸直腸癌患者へのゲムシタピン、オキサリプラチン、5-フルオロウラシル(5-FU)およびレボ-フォリン酸(レボフォリナート)による新規の隔週多剤療法試験において1例が血液量減少性ショックを伴う突発性の胃出血を来し、これが原因で最終的に死亡した。

366	エストロゲン	閉経後女性へのエストロゲン単独のホルモン補充療法により、軽度認知機能障害(MCI)及び痴呆(probable dementia)のリスクの若干の増加が認められた。
367	エストロゲン	閉経後女性へのエストロゲン単独のホルモン補充療法により、認知機能(cognitive function)低下のリスクの若干の増加が認められた。
368	BCG膀胱内用	膀胱癌に対するBCG膀胱内注入療法後に生じた多発関節炎の1例
369	プレドニゾロン	気管切開後短期間で発症した気管腕頭動脈瘤の1剖検例
370	イブプロフェン	イブプロフェンと急性腎不全の1例
371	ジクロフェナクナトリウム	突発腎不全の結果、糖尿病をきたした患者における再発低血糖症の1例
372	ジアゼパム	ジアゼパム直腸ゲルと関連する呼吸有害事象の報告
373	メトニダゾール	メトニダゾールを投与した雄マウスに、精子形成障害と骨髄細胞の染色体異常が発現した。
374	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(敗血症による死亡例)
375	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を完全には否定できない死亡例が報告された。(敗血症等による死亡例)
376	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に発症した皮膚筋炎の1例
377	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	Helicobacter pyloriの除菌を行った特発性血小板減少性紫斑病慢性型の一例
378	塩酸セフメノキシム	白内障術前の抗菌点眼は人工涙液と比較して細菌陽性率に有意差を示さなかった。
379	レベトール	移植後患者におけるC型肝炎ウイルス(HCV)感染の治療中に急性細胞性拒絶反応(ACR)を発現した一連の患者についての報告
380	レベトール	インターフェロンとリバビリンとの併用療法による骨密度減少
381	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	肝障害はスルホ化製剤に特徴的で、スルホ化自体が発症に関与する可能性が考えられた。
382	酢酸メドロキシプロゲステロン	エストロゲン(CEE)単独試験及びエストロゲン+プロゲステロン(CEE+MPA)併用試験の結果より、痴呆のリスク及び軽度認知機能障害(MCI)のリスクが増大した。(Womens Health Initiative Memory Study)
383	酢酸メドロキシプロゲステロン	閉経後ホルモン補充療法は65歳以上の女性の認知機能に悪影響を及ぼし、その程度は治療開始時の認知機能が低い女性ほど大きかった。(Womens Health Initiative Memory Study)
384	ニコランジル	ペースメーカを使用している患者にニコランジルを投与したところ、ペースメーカ不全を発症した1例
385	プレドニゾロン	プレドニゾロンによる重篤な播種性非定型抗酸菌症が発症した1症例
386	塩酸イリノテカン	白人癌患者30例に対し、塩酸イリノテカンの投与を行い、ABCB1、CYP3A4、CYP3A5およびUGT1A1をコードする遺伝子変異体を用いて、塩酸イリノテカンの薬物動態と好中球減少を関連付けた。
387	エストラジオール	WHI studyの補足試験として行われていた痴呆や軽度認知障害(MCI:Mild Cognitive Impairment)への効果を判定する試験(WHIMS:The Women's Health Initiative Memory Study)における、CEE単独群についての成績が公表された。
388	エストラジオール	WHI studyの補足試験として行われていた痴呆や軽度認知障害(MCI:Mild Cognitive Impairment)への効果を判定する試験(WHIMS:The Women's Health Initiative Memory Study)における、CEE単独群について包括的認知機能の成績が公表された。
389	酢酸メドロキシプロゲステロン	閉経後ホルモン補充療法は65歳以上の女性の認知機能に悪影響を及ぼし、その程度は治療開始時の認知機能が低い女性ほど大きかった。(Womens Health Initiative Memory Study)

390	酢酸メドロキシプロゲステロン	エストロゲン(CEE)単独試験及びエストロゲン+プロゲスチン(CEE+MPA)併用試験の結果より、痴呆のリスク及び軽度認知機能障害(MCI)のリスクが増大した。(Womens Health Initiative Memory Study)
391	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	低ガンマグロブリン血症のため治療に難渋した毛細血管拡張性失調症(ataxia-teleangiectasia,AT)の1症例
392	シスプラチン	in vivo ラット・アストラサイト染色体異常試験(小核試験)法において、電磁場曝露単独では、小核頻度の増加は認められず、電磁場とCDDPの複合曝露では、CDDP曝露単独に比べ有意に小核頻度が増加しており、発がん性を示唆している可能性が否定できなかった。
393	ソマトロピン	無言状態、小脳失調など多彩な精神・神経症状を呈し、診断に苦慮した下垂体機能低下症の1例
394	セボフルラン	セボフルランと二酸化炭素吸着剤との異常発熱
395	塩酸エタンブール	核性リンパ節炎、副腎結核によるアジソン病と診断され、ハイドロコルチゾン、イソニアジド、リファンピシン、エタンブールの治療が開始されたが、色素沈着が増強し、掻痒感も伴ってきた。顔面、胸部、腹部の色素沈着の強い部分より生検術を施行したところ、扁平苔癬の像を認めた。
396	バルプロ酸ナトリウム	カルバマゼピンに暴露された子供ではIQスコアに差が見られなかったが、バルプロ酸に暴露された子供ではIQスコアの低下が見られた。
397	塩酸ゲムシタピン	膵癌の手術切除はゲムシタピンによる白血球減少を増悪させた。
398	エストラジオール	エストロゲン単独及びエストロゲンとプロゲスチン併用のHRT療法により認知障害及び痴呆障害リスクの上昇が示唆された。
399	エストラジオール	エストロゲンのHRT療法により認知障害リスクが示唆された。
400	塩酸ロベラミド	偽膜製大腸炎、全層性大腸壊死を発現した1例
401	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウムの投与がライ症候群発症に関与したと考えられた1例
402	ロキソプロフェンナトリウム	膝関節痛にてロキソプロフェンナトリウムを服用していた患者において、カンジダ感染を伴う胃潰瘍穿孔が生じた1例
403	スルピリン	オセルタミビル、スルピリン投与後に観察された成人発症のReye症候群
404	プレドニゾン	慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群の治療に対し、プレドニゾンを投与中に発生した空腸嚢腫様気腫症の1例
405	エストリオール	The Women's Health Initiative Memory Study(WHIMS)における結合型エストロゲン(CEE)単独群についての成績によると、CEE単独投与の場合においても痴呆またはMCI合計のリスクがプラセボ群と比較して上昇し、以前報告されているE-P配合剤試験の結果と合わせて、65歳以上の女性に対して痴呆および軽度認知障害(MCI:Mild Cognitive Impairment)の予防を目的として、ホルモン補充療法は実施するべきではない。
406	エストリオール	The Women's Health Initiative Memory Study(WHIMS)における、結合型エストロゲン(CEE)単独群について包括的認知機能の成績によると、65歳以上の女性の包括的認知機能に関してCEE単独投与の効果は実証されず、逆に認知機能におけるわずかな低下が認められ、この低下は試験開始時に認知機能が低い女性で顕著であった。
407	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例および二次性悪性疾患が報告された。(急性白血病による死亡例)
408	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(白血病による死亡例)
409	キヌプリスチン・ダルホプリスチン	バンコマイシン耐性Enterococcus Faecium(VREF)治療における癌患者を対象としたリネゾリドとの有効性及び安全性比較試験において、筋痛・関節痛の副作用が33%の頻度で発現した。

410	エピネフリン	収縮期血圧が200mmHgあるいは心拍数120 / 分を超えない量のイソプロテネロール、エピネフリン、ノルエピネフリン、メキシサミンを投与。いずれの薬剤投与でもQTc延長を認めたものの、エピネフリンでのQTc延長が一番顕著に認められた。
411	硫酸モルヒネ	人工呼吸器で呼吸管理を受けている未熟児へのモルヒネ投与は疼痛の臨床症状を低下させたが、重篤な脳室内出血及び脳室周囲白質軟化症の発生率を高めた。
412	フルコナゾール	FLCZ投与中のBSCとLTGの血中濃度は、ほとんど変化せず、一方、CBZ値は中毒レベルまで上昇していた。
413	フェノバルビタール	妊婦におけるフェノバルビタール単剤療法は、出生児での重症奇形のリスクを有意に上昇させた。
414	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後にGuillain-Barre症候群を発症した1乳児例
415	メトロニダゾール	ヒトリンパ球培養細胞(in vitro)の染色体異常試験においてメトロニダゾールが陽性であることが示唆された。
416	メトロニダゾール	メトロニダゾール1500 mg/day 10日間の内服前と内服完了後の2点で採取したヒトリンパ球によるin vivo-in vitro染色体試験で染色体異常が示された。
417	リン酸ベタメタゾンナトリウム	免疫抑制として糖質コルチコイド(本剤:ベタメタゾン,酢酸デキサメタゾン,プレドニゾロンを含む)の全身投与を受けた患者で、皮膚癌や非ホジキンリンパ腫等悪性疾患のリスクが増加する。
418	マレイン酸ペルフェナジン	インフルエンザ肺炎と抗精神病薬の相乗効果により横紋筋融解症が発現した。
419	グリセリン	グリセリン浣腸を施行直後より悪寒、背部痛が出現、更に嘔吐を認め、一過性にIL-6の異常高値を認めた。
420	ウイズワンピコ	緩下剤を長期に使用する高齢者において血漿ホモシステイン濃度の有意な上昇を認めた。
421	グリセリン	グリセリン浣腸後、溶血・急性腎不全をおこした1例
422	エストラジオール	エストロゲン単独投与による認知機能障害(痴呆症・軽度認知機能障害の合計)のリスク上昇が示唆された。
423	エストラジオール	エストロゲン単独投与による臨床上意味のある認知機能低下のリスクが示唆された。
424	バファリンA	血友病患者におけるアスピリン内服3日後の咽後間隙血腫の発症
425	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	糖尿病性腎症の維持透析患者に大腿深部膿瘍が合併した一例
426	ソマトロピン(遺伝子組換え)	成長ホルモン療法を行ったヌーナン症候群の患者に側弯症が発現し、側弯症が進行した。
427	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	四肢、口唇のしびれ感出現。インスリンアレルギーと診断された。
428	ソマトロピン	外科的摘出術を受け、病理学的診断の確定をした頭蓋咽頭腫53例のうち、15歳未満の小児12例について、治療方針の妥当性を検証するため、臨床経過、治療方法、合併症などを分析した。その結果報告の中に5例(41.7%)の腫瘍再発又は再増大が認められた。
429	クロルプロマジン・プロメタジン	フェノバルビタールを妊娠期間中に服用すると、先天性異常の発生リスクを高めるおそれがある。
430	ベタメタゾン・d - マレイン酸クロルフェニラミン	コルチコステロイド投与は、一部の皮膚がん及び非ホジキンリンパ腫のリスク増加と関連している可能性がある。
431	酢酸テリパラチド	テリパラチド[rhPTH(1-34)]投与F344ラットの骨腫瘍の発生において、用量と投与期間は重要因子となりえる。
432	フルオロメトロン	アカントアメーバ角膜炎の発症
433	ピペラシリンナトリウム	ピペラシリンがin vitroで血清中アスペルギルス抗原(ガラクトマンナン)の検査で陽性反応を呈する。

434	プレドニゾン	免疫抑制として糖質コルチコイド(本剤: ベタメタゾン, 酢酸デキサメタゾン, プレドニゾンを含む)の全身投与を受けた患者で、皮膚癌や非ホジキンリンパ腫等悪性疾患のリスクが増加する。
435	硫酸アトロピン	硫酸アトロピンを静脈注射した結果、房室ブロック及び洞停止が認められた。
436	アロプリノール	薬剤アレルギーらしき発熱、紅皮症が続き、CMV腸炎が発症し、発熱、発疹などの症状が再発、遷延ないし二峰性の経過を取っており、総合してCMVの再活性化を伴うDIHSと診断した。
437	ジクロフェナクナトリウム	感冒症状に対し処方されたジクロフェナク、セファクロル、アセトアミノフェン内服直後より顔前暗黒、喉の閉塞感、呼吸苦が出現し、全身紅潮、掻痒感、顔面浮腫、呼吸困難、血圧低下を認めた。アナフィラキシー様反応ショックが疑われた。
438	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェン服用の増加は初めて成人型喘息と診断された(NDAA: Newly Diagnosed Adult-Onset Asthma)患者層の増加に関連する恐れがある。
439	シクロホスファミド	ウェーゲナー肉芽腫患者におけるシクロホスファミド服用量の増加が膀胱癌のリスクを増加させる恐れがある。
440	インフリキシマブ	infliximab投与開始後、筋炎を発症し死亡した関節リウマチ患者より、筋炎の病原体として、蚊によって媒介されるMicrosporidian Brachiola algeraeが同定された。
441	ジソピラミド	ジソピラミド服用後にトルサードポアンを発現した症例
442	アンピロキシカム	コレステラミンによるピロキシカムの代謝促進
443	アンピロキシカム	コレステラミンによるピロキシカムの代謝促進
444	アンピロキシカム	コレステラミンによるピロキシカムの代謝促進
445	ラクツロース	急性肝性脳症に対するラクツロース、ネオマイシン併用群とプラセボ群との比較試験の結果、ラクツロース、ネオマイシン併用群は急性肝性脳症に使用すべきではない。
446	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	IVIg療法が施行された小児特発性血小板減少性紫斑病(ITP)症例での神経学的合併症の出現頻度がポリエチレングリコール(PEG)処理製剤において高いとされた。
447	ニフェジピン	ニフェジピン舌下カプセルを用いた高血圧の積極的治療に関連する脳血管及び心血管系有害事象、2例を経験した。
448	ピロキシカム	コレステラミンによるピロキシカムの代謝促進
449	ピロキシカム	コレステラミンによるピロキシカムの代謝促進
450	ピロキシカム	コレステラミンによるピロキシカムの代謝促進
451	パラフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、メタアミノフェノール、レゾルシン、過酸化水素(35%)	染毛剤による頭部接触皮膚炎に引き続き、四肢に扁平苔癬が出現した1例
452	乾燥弱毒生麻しんワクチン	鶏由来成分を原料とするワクチンへの内因性鶏レトロウイルス(EAV)、鶏白血病(ALV)ウイルスの混入について
453	人全血液	英国全体では3800人がvCJDの潜伏期にある可能性が示唆された
454	乾燥弱毒生麻しんワクチン	スクレイピー感染羊の筋肉より異常タンパク質プリオンPrP ^{Sc} 検出
455	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ヒト下垂体精製GH製剤投与歴のある患者が多様な精神・神経症状を呈した
456	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ヒト下垂体精製GH製剤投与歴のある患者が多様な精神・神経症状を呈した